

SHERPA

INOUE BORING NEWS LETTER SPECIAL EDITION

[シェルパ] 2013.VOL.3



Engineがくれたもの。



INOUE BORING NEWS LETTER SPECIAL EDITION

DEAR READERS!



僕を含めた、エンジンを愛する人達へ

20世紀がどんな世紀だったか、ということを含る方法というのはいろいろあると思います。なかでもエンジンが大発展して世界中を変えた世紀という意味で「エンジンの世紀」と言う方をしても間違いではないと思います。バイクやクルマ、ボートや飛行機、農耕機械や草刈り機まで、あらゆるものがエンジンによって動かされるようになり、人間の行動範囲は極大に達するようになりました。時代は21世紀となり、ある部分ではエンジンの発展は行き詰まりをみせているようにも見えます。またその排気を含む有害成分や温暖化ガスが大きな問題になっています。

もしかしたら近い将来（数十年のうちに）いまのように化石燃料を燃焼させて動くタイプの「エンジン」は限界を迎えるのかもしれませんが。

でも、そのようにエンジンの発展の限界がみえはじめた今でも、エンジンとエンジンのついた乗り物をこよなく愛する人達がたくさんいます。レースに、遠乗り、旅行に、身近な通勤やおでかけにも、エンジンを使った乗り物で行く事が好きな人達。自由を与えてくれて、移動の能力を飛躍的に高めてくれるエンジンの付いた素敵な乗り物たち。

爆発を筒の中に閉じ込めて、その爆発する力を上手に取り出して動力として利用しようという無謀にも思える原理を、いまでは多くの方がそれと意識する事もなく、毎日ふつうに利用しています。そして、中にはその仕組みをこよなく愛し、自分でその仕組みを分解し組み立てて、最善の状態に動くように知恵を絞り精魂を傾ける人達があります。エンジンの仕組みに耳を傾け、その息吹に心を躍らせる、そんな感性を持った方達なのだと思います。

私たち（株）井上ボーリングは、そんな方々のお役にたきたい、と心の底からつよく願っています。



INOUE BORING NEWS LETTER SPECIAL EDITION

SHERPA CONTENTS

2 DEAR READERS !

3 CONTENTS

4-8 WATER SPORTS STORY

9-10 PHOTOS on the boat

11-12 MOTOR CYCLE STORY

13-14 PHOTOS at the beach

15 AFTER WORDS

photograph:

Nen Uchida/Shift Inc. Sotaro Inoue

text:

Sotaro Inoue

Starring: Saori Sakihara
Co-Starring: Mayu,Sotaro

本冊子のタイトル**SHERPA**は当社所有の**BULTACO**
SHERPAT にちなんだもの。と、同時に内燃機の世界への
案内人でありたいという**IB**の願いも込められています。





動物であるヒトは自由な移動手段を必要としている。

都市生活者は公共交通機関でことたりるのでクルマなど必要としていない？ はたしてそうでしょうか。

それは幻想です。あえてそう言いきってしましましょう。確かに、もしかしたら日々の通勤や都市内の移動に限れば、自前の移動手段を持たなくても「生活」はできるのかもしれませんが、でも、「人はパンのみにて生きるにあらず。」夢や希望や脱出や恋や逃避や失望や再生までも含めたあなたの「人生」にとっては、どうしても自由な移動手段=エンジンのついた乗り物が必要なはずではありませんか？

朝早い東京駅。鉄道から逃れ出た人々は、みな急ぎ足でそれぞれの目的地をめざしています。傍らに立ち尽くすひとりの女性の孤独に思いを馳せる余裕もありません。世の中のすべてがそうして、彼女のすぐそばを音も無く通り過ぎて行ってしまいます。そのような周囲のなにも関わりのもたずに通り過ぎてしまうような無機質な移動のためには交通機関は便利なものなのかもしれません。でも、ひとたびその流れから抜け出ようとするときにはどうでしょうか。

我々ヒトは植物ではありません。動物なんです。動物の特徴は自由に自分の意思で好きなとこ

ろへ移動できてしまうことです。植物からみたら驚異的な能力であるにちがいません。



そのような我々個人の自由な移動能力をさらに飛躍的に高めてくれたのが、19世紀末に発明され、20世紀に大発展した内燃機関=エンジンでした。今われわれはその恩恵をともしれば忘れかけようとしているのではないのでしょうか。

ふとした偶然から、ふたりは行き先を共有する事になった。

「ここではない何処かへ」



この現実の地上からできる限り遠いところへ。

誰もがほんとうはいつだって思い立ったその時に日常を離れて飛び出す自由をもっているんです。その自由を奪っているのはいったい誰なのか。それは、もうわかっていますよね。

みなさん自身です。

仕事や家族や様々なしがらみがあなたを縛っているのではありません。そのしがらみを選択したのはあなた自身なんですから。

そして人は時々、どうしてもそのような日常から飛び出してみなくては行かないことがあるんです。そのような時に必要なのが意外にも、旧くて、あちこち凹んだおんぼろのChevroletのピックアップトラックだったりします。たぶんプリウスではないし、フィットでもないでしょう。ましてやE231系（山手線など）であろうはずがないのです。

たくさんの荷物を載せて

ほんとうはバイクで行くのもとてもいい。でも、今回はバイクで行くには少し積まなければいけないものが多過ぎます。そこでいっそ、そのバイクも荷台に載せて一緒に運んでしまうことにしましょう。こんなことができてしまうのが、ピックアップトラックのほんとうにいいところですよ。載せたいものはなんでもかんでも荷台に座席にいい加減に放り込んで、人でも物でもいっぱい載せて、さあ出発しましょう！ さて、どこへ？

今回の目的地は実は地上ではありません。目的地(?)はなんと水の上の世界なんです。

東京から東へと伸びる高速道路があります。その道は東へ東へと進んで海へ突き当たったあたりで行き止まりになっています。そのあたりは東のはずれ、関東で最も早く日が昇る土地です。海のすぐ手前に海へと注ぐ大きな河があって、今回の目的地はあろうことかその河の

上です。

河のほとりに小さなマリナーがあって、そこには僕のモーターボートが2艇置いてあります。1艇は水上スキーの専用艇、もう1艇はウェイクボードの専用艇です。僕はその河を仲間達と力を合わせて水上スキーができるように開拓して以来35年、全ての夏のほとんどの週末をそこで過ごしてきました。僕の特別な場所です。

そこへ彼女を連れて行ってあげる事にしたんです。彼女にも自由をプレゼントするために。





大きな空を胸の奥まで吸い込んで。

ほんとの地名はちがうんですが、水上スキーヤーはみんなそこを“KASHIMA”と呼びます。

関東地方を貫いて流れる河が海に流れ込む手前ではとても大きな川幅になっています。僕らが滑るのはその支流で、堰によって止められて流れがないことが多く、水上スポーツにはとても適したグレンデになっています。

大きな水面の上には、遮るものもない大きな空が広がっています。あいかわらずあまりぱっとしない空模様でしたが、それでも空気は清々しく、既に心が洗われるような気持ちになってしまいます。

でもね、このあとはそれどころではないんです。体全部で水の中に浸かって、滑っては転ぶことを繰り返すうちに、なんだか自分がまるごと自然の大きな洗濯機に投げ込まれたようになるんです。その気持ちよざったらありません。

でも、このときはまだ彼女はそこまでのこととは知らず、ただ期待に胸をふくらませています。

それもごらんの通り、かなり大きくふくらませているようですよね！ とても細い体なのに。



さあ、水着に着替えて、空と水しかないシンプルな世界へ飛び出そうよ！
はやくはやく！！



水面のいいところ
へ移動しよう！

まずは先輩ウェイクボーダーに話を聞いて、次にはどうやって滑るものなのかやってみせてもらいましょう。

Stiffy Indy→



←Off the Wake

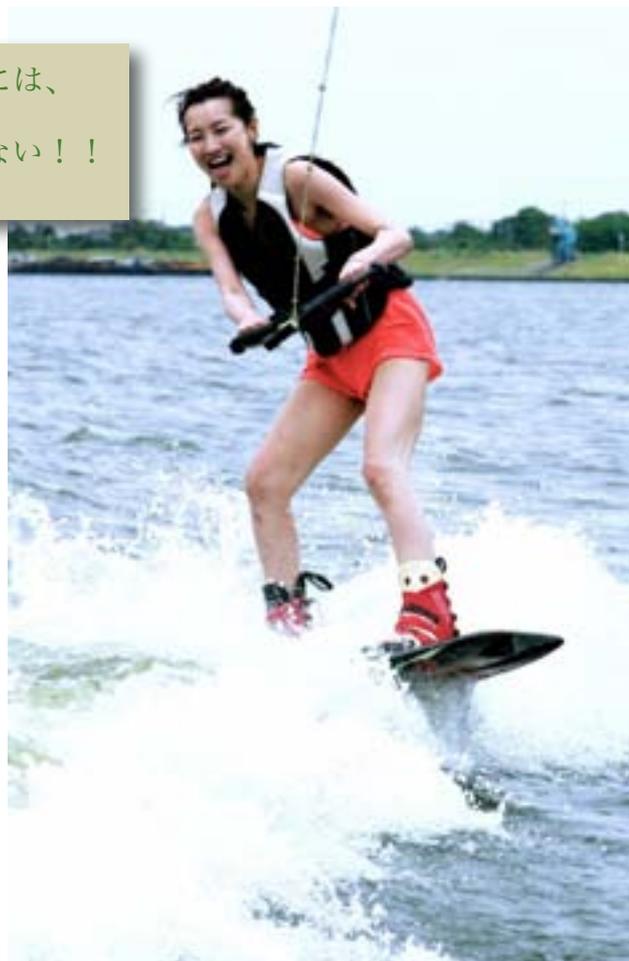


←Stale Fish!

Back Roll to Revert→



水の上で瞬間のバランスに集中しているときには、
去って行った人も、届かなかった夢もカンケーない！！



さあ、いよいよ

キミの番だよ！

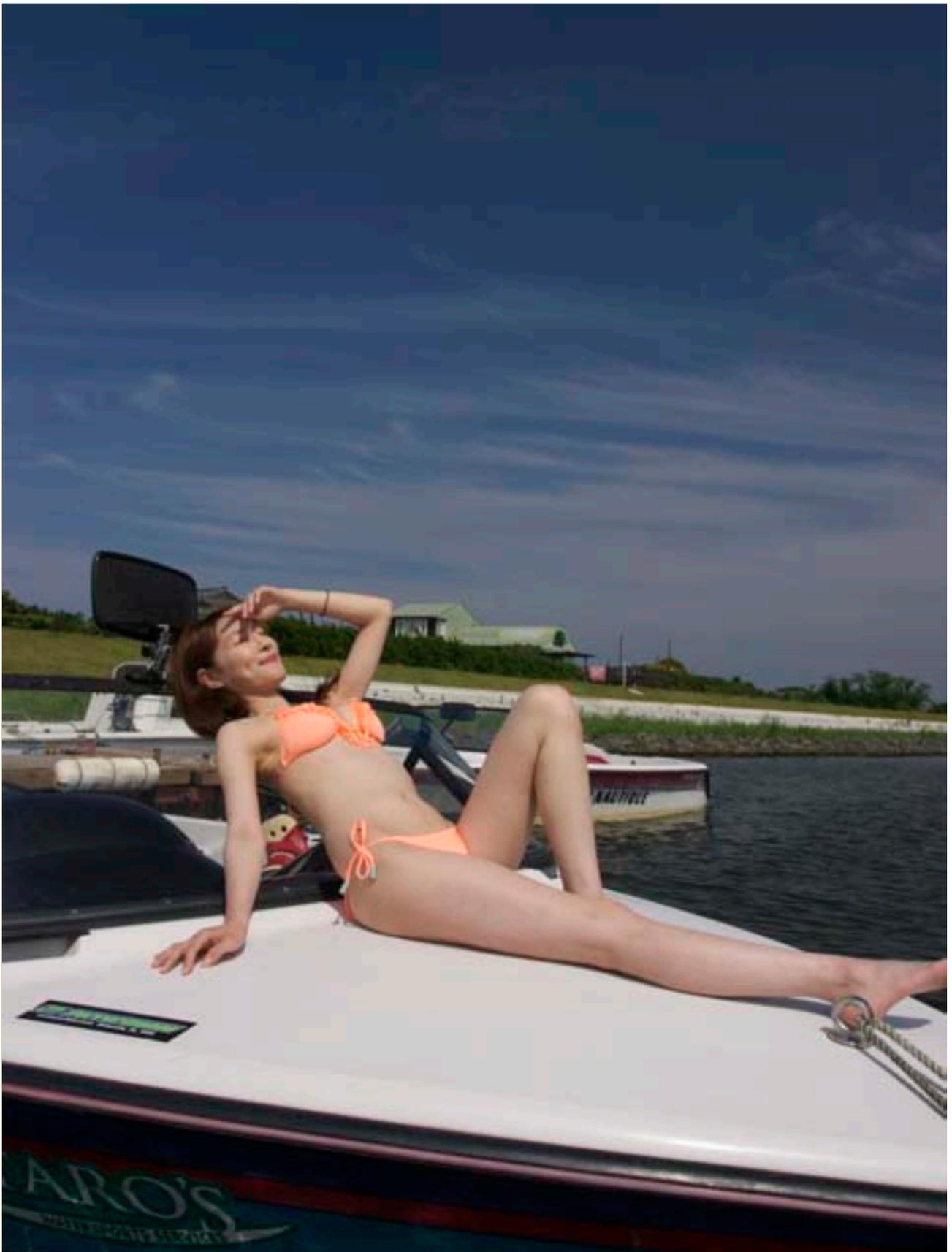
水上スキーやウェイクボードといったウォータースポーツは、思えばこのエンジンのパワーを両手で直に受け止めることで成り立つスポーツなんですね。ひよっとすると他のどんなモータースポーツよりも直接に「エンジンを感じる」スポーツなのかもしれません。

エンジンのパワーとスピードこそが、つかの間、僕らを水上世界の住人にしてくれるんです。



何もかも忘れて瞬間のバランス
感覚に全てをゆだねる。

両手でしっかりと掴んだハンドルが柔らかくそれでいて力強く僕たちを水の上に引き上げてくれます。その力は他ならぬエンジンが生み出したもの。



Here comes the sun! 疲れた体に日差しが心地好い。



Touching the clear water makes her soul fresh.



今度はビーチでバイクで遊ぼう！

水遊びのあとはバイク！

エンジンを自分でコントロールして遊ぶんだ。

エンジンの上にもたがって、エンジンの力で走り回ることを楽しむ、それがバイク。

砂の上なら転んでも笑っていられます。

砂丘を上りつめてはまた駆け下りて、波打ち際をうまく濡れないように走ってみたり、思い切りしぶきをあげちゃったり。

あとで掃除がたいへんだ！





ここまでつれてきてくれたV8エンジンがなんとオーバーヒート！
斯くなる上は！

おもいきり自由に遊んで帰ろうとすると.....！

なんと、ここまでゴキゲンに走ってくれたChevrolet SILVERADO のV8-5.7リッターエンジンが砂丘のまんなかでオーバーヒート！古いクルマはこれだから楽しい！



エンジンが冷えるのを待ってあれやこれやと弄ってみるけど、かからないエンジン。こんな砂丘の真ん中では誰も助けにきてくれません。これは、困った！！

僕はなんとかやってみてるから、二人でバイクで助けを呼んできてくれない？

「え〜？どっちいったらいいか、わかんないです!？」



こんなときに痛感するのが、エンジンの偉大さ。僕らは自分の体を運ぶのもやっとなのに、このおんぼろトラックは6人と荷物満載でも砂の上を平気で走ってくれます。調子がいいときならね。

破れたラジエターをなんとか塞いで、シャワー用に持ってた水を足して、おそろおそろイグニッションキーを回すと、、、
「ギューギュー、グワワワ〜ン！」

「カクタ〜!!」

もう、みんな大喜びで大笑い！

「これで帰れる〜〜！」

まさにエンジンの有り難みを痛感した瞬間でしたね！

自由を満喫した彼女は

さて、フルに一日遊びまくって、帰りはまた東京までドライブ。そして別れ際、彼女は

「絶対、また遊びにきたいです。」なんて言ってくれました。

でもね、僕にはわかってました。僕達はたぶん、きっともう会うことはないでしょう。だって彼女はもう十分にたちなおってましたからね。ドキドキする新しいことにトライして、自分は自由だし、やればなんだってできるんだってことを思い出したんですから。

もう、こんなくたびれたトラックやくたびれたおじさんと遊んでる暇なんてあるはずがない。それでいいんです。それでなくちゃ、困るんです！



SAORI SAKIHARA WITH BULTACO SHERPAT '79 2013 6/22 @NIKKAWA-HAMA



SAORI SAKIHARA 2013 6/22 @NIKKAWA-HAMA



WHAT'S WATER SPORTS?

あとがき

エンジン屋のiBがなぜWater Sportsを？

端的に言えば、それは僕が若い頃からやっていたことだから、ということになってしまおうんですが、ただ、ここにご紹介したようなウォータースポーツはすべてエンジンがなくては成り立たないようなものなんです。

エンジンのパワーが成り立たせる世界。エンジンのパワーを直に手のひらに受け止めて愉しむ遊びといえるでしょう。

私達、(株)井上ボーリングの社は「エンジンで世界を笑顔に！」にも通じる世界です。

さらに、ウォータースポーツのゲ

レンデまでたどり着くにもエンジンの力は必要です。

近くに駅なんてないところがほとんどですからね。この“KA-SHIMA”の周囲だと河を渡った反対側の県までいかないと鉄道がいつさい走っていません。「もう免許なんていらない」なんていうのが、いかに視野の狭い都会人の発想であるのかがよくわかります。世界はもっと広いんです。

さらに今回は近くの海辺でバイクで遊んでみました。電車じゃこんなことはできません。バイクは電車より速く安く快適に通勤することもできるけど、痴漢にまぢがわれないか恐れながら乗る電車にバイクのまねはできないでしょ？

エンジンがもたらしてくれる豊かな世界。日頃からiBはバイクレースやモトクロス・トライアルなどのモータースポーツにも親しんでいます。それ以外にもエンジンはほんとうに僕達人類を幸せに豊かにしてくれているんです。(例えば大きな施設のエアコンってエンジンで動いてるって知ってます?)

さて、言うまでもないことですが、今回のお話はもちろん僕の創作です。つまり嘘がいっぱい入っています。

東京駅の大丸のあたりをいくらウロウロしてみても、フツは寂しいハートを抱えたキレイな女の人に出会ったりはしないと思いますので、念のため。ははは。(笑)



「エンジンで世界を笑顔に！」

創業60周年 株式会社井上ボーリング



(株) 井上ボーリング